

料金別納郵便



千秋楽

鈴木一弘 茶の湯の裂地展

令和6年6月25日(火)～30日(日) 会期中無休

開廊時間：午前11時～午後7時（最終日30日は午後5時まで）

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

■ 鈴木一弘さんによる裂地のお話の会

弊廊までお電話かメール↓にてお申込下さいませ。

日時／会期中全日 13:00～13:30 会費／無料 定員／各日共8名様

金襴、緞子、間道、錦といった裂地の違いなども分かりやすく解説致します。

略歴

昭和25年 京都市中京区現住所に生まれる
平成12年 京都美術工芸展 入選
平成14年 第17回 シルク博物館 シルク博物館賞受賞
平成18年 「名物裂事典」発刊に編集長として参画
平成23年 日本橋三越本店、松坂屋名古屋本店にて 個展開催
平成27年 台湾国立故宫博物院に誰ヶ袖屏風袖、青磁裂象嵌花瓶納入
令和元年 「大航海時代：世界交易が茶の湯にもたらしたもの」講演（サンフランシスコ州立大学）
令和2年 NHK 歴史秘話ヒストリア「謎の茶碗はなにを語る」出演
令和3年 日本経済新聞「茶人好み『名物裂』途切れぬ美」掲載
令和4～5年 「茶道雑誌」（河原書店刊）にて「名物裂を繙（ひもとく）」を連載

裂地（きれじ／織物の事）の作家兼研究者である鈴木一弘さん。京都の地にて、お祖父様の代から三代に亘り裂地の研究を重ね、中国やインドから請来された図案を復原し、帛紗（ふくさ）や数寄屋袋などの多彩な作品を作ってこられました。弊廊では、永きに亘りお世話になりましたが、誠に残念ながら、本展をもって、作家を引退される事になり、本展が人生最後の個展となる千秋楽となりました。

私は一弘さんの裂地作品が大好きで、愛用する数寄屋袋は、左上の画像にあるウンヤ手格天井更紗（さらさ）です。未熟な私も、一弘さんから、茶の湯の裂地について色々教えてくださいました。来春には、淡交社から名物裂の御本も上梓されるとの事で、ご同慶の至りです。

そして、本展では、茶の湯の裂地展として、茶碗に寄り添う帛紗、茶入や茶碗を大切に包む仕服、扇面や懐紙などを持ち運ぶ数寄屋袋などを展覧致します。最新作となる竹屋町と印金を融合させた帛紗や、お父様の一樣所縁の更紗の帛紗に加え、一弘さんの定番の柄も出品致します。又、非売ですが、お祖父様やお父様の作品も並べ、千秋楽展に花を添えます。寂しい限りですが、謹んでご案内申し上げます。

最後の個展の場として、未熟な弊廊をお選び頂き、恐縮至極です！感謝の気持ちで一杯です。これからも一人の一弘ファンとして、未永くお付き合い頂ければと切に願っております。店主 安田尚史

柿屋ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com



